

会 議 録

会議の名称		令和6年度 第1回 春日部市市民参加推進審議会		
開催日時		令和6年11月6日（水）	開 会	午前10時00分
			閉 会	午前11時20分
開催場所		春日部市役所（本庁舎3階 会議室304）		
議長(会長等)氏名		牛山 久仁彦		
出席者	委員氏名	(出席人数：4人) (会長)牛山 久仁彦、土屋 里穂、高橋 美智子、吉田 理子		
	説明者 その他	(出席人数：2人) 市民活動センター指定管理者 株式会社 コンベンションリンケージ 市民活動センター所長 小笠原 正人、アドバイザー 市川 潤		
	事務局	(出席人数：6人) 市民生活部長 飯口 信彦、 市民生活部次長兼市民参加推進課長 中村 匡則、 市民参加推進課主幹 宮田 陽介、市民参加推進課主査 大貫 礼奈、 市民参加推進課主任 佐々木 雪萌、市民参加推進課主事 篠原 遼大		
次第及び公開、 一部公開、 非公開の区分		1 開会 2 市民参加推進審議会の概要について 3 報告事項 (1) 令和5年度市民参加手続実施結果及び令和6年度実施予定について 4 議事 (1) 市民活動センターの第三者評価について 5 その他 6 閉会 (全て公開)		
一部公開、 非公開の場合は その理由		☐ 要綱第3条第1号該当： ☐ 要綱第3条第2号該当： ☐ 要綱第3条第3号該当： ☐ 要綱第3条第4号該当：		
配布資料		・ 次第 (資料1) 市民参加推進審議会の概要について (資料2) 令和5年度市民参加手続実施結果及び令和6年度実施予定について (資料3) 令和5年度春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」実施事業一覧 (資料4) 令和5年度春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」運営実績 (資料5) 令和5年度春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」(自己評価表) (資料6) 令和5年度春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」(第三者評価結果) (案)		

	【参考資料】 ・春日部市市民参加推進条例 ・春日部市自治基本条例 ・春日部市市民活動センター運営方針 ・春日部市市民参加と協働指針
会議録の作製方法	☐ 録音テープ等を使用した全文記録
	☒ 録音テープ等を使用した要点記録
	☐ 要点記録
会議録署名の指定	議長による署名

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	《 1 開会 》
事務局	《 2 市民参加推進審議会の概要について 》
事務局	《 3 報告事項 》 (1) 令和 5 年度市民参加手続実施結果及び令和 6 年度実施予定について、資料に基づき説明。
議 長	ただ今の事務局からの説明に、質問等がある方は挙手をお願いします。 実施件数については、例年と比較してどうか。
事務局	件数については、概ね例年通りである。
委 員	資料 2 の、市民参加手続実施結果のNo.1 やNo.5 の案件については、意見反映件数が「0 件」となっており、その他の案件においても、意見提出件数（人数）に対して、意見反映件数が少ないが、反映されない理由などは公にならないのか。
事務局	市民参加手続実施結果については、担当部署が案件ごとに、意見内容と意見に対する市の考え方を明記した概要を市公式ホームページにおいて公開している。
委 員	承知した。
市民活動センター	《 4 議事 》 (1) 市民活動センターの第三者評価について、資料に基づき説明。
議 長	ただ今の事務局からの説明に、質問等がある方は挙手をお願いします。 資料 4 の会議室利用実績を見ると、来館者数はコロナ以前まで戻ってきていないが、会議室稼働率は微増しているあたり、同じ人が利用しているなど固定化しているのか。
市民活動センター	新しい団体の利用もあるが、固定化しているのが現状である。
議 長	固定化については、何か検討したほうがいい。交流ミーティングスペースは、2 時間利用できるのはいいが、実態はどうか。
市民活動センター	高校生が圧倒的に多く、交代してもらったこともあるが継続して使用し

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	ている。登録団体の優先席も設けているので、今のところトラブルなどは生じていない。
議 長	市民活動センターや春日部市に限らず、どこも今は高校生が多い。
委 員	利用者会議の中で、高校生に声掛けしてみたらどうかなどの意見を出した人もいたが、実際の声掛けに対しては消極的になってしまう傾向があった。何もしなければ現状は変わらないのだから、出来そうなことから取り組む必要があると強く感じる。いずれにしても、何かしらの声掛けはしたほうがいいと思う。
議 長	利用目的は違っても、せっかく若い人が来てくれているので、近隣市で何かいい例とかあれば教えていただきたい。
市民活動センター	どこも同じ課題を抱えているのが現状である。 実際に、ぽぽらフェスティバルの受付などをお願いしたことがあるが、受験で忙しいなどで断られてしまった。
委 員	資料3の「5. 利用者アンケート」の課題と今後の対応の中で、「特に登録団体利用以外の利用者（大部分が交流ミーティングスペースを勉強場所として利用している10代の利用者）に未記入が目立った。」とある部分について、もう少し詳細な説明をお願いしたい。
市民活動センター	アンケートはQRコードからも回答が可能となっているが、紙では両面の裏面ページにある「施設の満足度、職員に対する満足度、事業に対する満足度」などを記載する箇所が空欄又は、知っている事業は無いという回答になるケースが多い。アンケートの回答結果については、ぽぽらのホームページにも掲載しているので後ほど参照いただければと思う。こちら側からも、ぽぽらがどのような施設であるのかを伝えていく必要があるとは感じている。
委 員	アンケートは、全ての人に対して同じものを使用しているのか。
市民活動センター	同一のものを使用している。
議 長	アンケートの自由記入欄なんかは、なかなか書きにくいものでもあるが、高校生達に対して、市民活動センターとはどのような目的を持った場所なのか、高校生の授業科目でもある「公共」というものを理解する

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委 員 市民活動センター	場にもなるといいが。 高校生が交流ミーティングスペースを使用開始する際は、何か登録しているのか。 登録はしていない。
委 員 市民活動センター	啓発みたいなことはした方がいいのではないかな。 高校生が使用する際は、市民活動センターの施設概要について伝えてはいるが、その認識を持って利用しているかは不明である。勉強できるスペースというだけの意識が強いかもしれない。
議 長	色々と工夫が必要かもしれない。
委 員	どのような形であっても、市民活動センターという施設があるということを知っていること、利用した・利用できたことの経験があるだけでもいいのかなと思う。公民館離れが進む中で、そのような利用形態でも経験することは大切だと思う。
議 長	そこに、意識啓発できると、なおいいのかもしれない。
委 員	センターへ直接行くことで誰かとコミュニケーションをとったり、直接見聞きするという体験も大切だと思う。
議 長	続いて、「市民活動センターの第三者評価について」事務局より説明を求める。
事務局	(1) 市民活動センターの第三者評価について、資料に基づき事務局(案)を説明。
議 長	ただ今の事務局からの説明に、意見・質問等がある方は挙手をお願いします。
委 員	全体的に感じることだが、どういうことが「社会課題」と感じているのか、捉えているのかが見えてこない。センター自身が、「市民活動」をどう捉えているのかが分からない。先ほどの高校生の勉強をはじめ、最近ではこどもの居場所も提供していたりするが、個々の対応をしている

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
市民活動センター	ように見え、マッチングとは異なるようにも感じるし、少し場当たりに感じてしまう。市民活動ができることは何かを考える必要があるのではないかと。社会課題を解決するための一つに市民活動が必要であるならば、もう少し掘り下げてニーズをくみ取りマッチングするなり支援するなりをしないと機能しているとは言えないのではないかと。
議 長	センターとして春日部の地域課題とは何かなど日頃より考えているが、団体ごとの課題やそれぞれのニーズを吸い上げながら側面支援を行いマッチングや協働を促すことにつながればと思っている。
市民活動センター	資料6の⑥マッチングと協働支援の機能の欄で、「マッチング後の各団体の展開が把握しにくいことが課題」とは何でしょうか。
議 長	埼玉県と連携して、NPO、市民活動団体、社会貢献活動に協力したい市内外の企業などを一同に集めてワークショップのようなことを行い、マッチングの機会を設け、その後マッチングの事例はいくつかできたが、一つのプロジェクトについてその後の経過や困り事はないかなどの詳細までは追い切れていないということから、そのような記載になっている。
事務局	記載の仕方としては、「マッチング後の各団体の把握に努められたい」というような表現でいいのではないかと。フォローアップというところに課題があるのと、協働の意義を確認してほしいという表現でいかがでしょうか。
委 員	ご指摘の内容については、修正いたします。
市民活動センター	資料5、総括の中段「団体の高齢化への対応や市民活動の新たな活動世代の育成等については、必ずしも効果的な取り組みができているとは言えない現状」とあるのに対して、成果の説明ではそのような内容に触れていないと思う。それに対して、資料6、総合評価では「すぐに効果的な取り組みを行うことは困難と考えますが、継続的に支援策について検討してください」とあり、何か冷たい印象を受ける。ぽぽらが感じている課題に対して、どうやったら乗り越えていけるのかみたいなことが、具体的に言葉で示されないと、第三者評価とは言えないような気がする。
市民活動センター	総括の意図としては、コロナがある程度落ち着き、それぞれの活動が再開されてきている中で、高齢者が多い団体を意識して、活動の場を設けたり、情報発信等も積極的に行っているが、まだまだ現状に追い

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
市民活動センター	ついていないことが課題として感じていることを記載した。担い手の育成という部分でも、コロナが落ち着き若者が活動を開始したかというところでもなく、学生、現役世代は忙しく、なかなか公益的活動にいきなえていないという現状があり、後継者問題が課題としてずっと残っている。
議 長	最初に会長からの質問にもあったとおり、同じ団体や利用者で固定化されているので、高齢化や新たな担い手育成につながらない課題が潜在化している。 どこの自治体の施設でも、多くの市民参加を進めるために開かれた市民の場として整備されてきたが、現状は一部の人たちだけが利用・使用する場になってしまっている。第三者評価としては、もう少し踏み込んで具体案なんかを提示してもいいのではないかとということだが、皆様いかがでしょうか。 若者、次世代の掘り起こしや、情報発信を活用するなどして具体的な方策を講じていただく、アクションを起こす必要がある、などの表現を用いて評価するほうがいいのではないのでしょうか。
委 員	会議室利用者の固定化について、使用したい時間が集中している。同じ団体が同じ時間を利用している。年代によっては、利用できる時間・曜日に限りがあり、平日・土日を分けるとか何か対策がないと新規利用者の広がりがなくなってしまう。
市民活動センター	会議室は、基本抽選により申し込みを受け付けており、抽選日を過ぎた日時については、予約に空きがあればどの団体利用者也使用することが可能である。
委 員	会議室稼働率 30%前後だと、一見空いているかのように見えるが、実情は異なる。初めて利用したいと思った人が利用しやすいような予約制度になるといいのかなと思う。30%前後の稼働率の数字のみを単純に評価することにも疑問が残る。
議 長	資料 6 の④に、会議室の稼働率については、他の施設の利用実態・運営状況・対応状況も把握し検討してくださいなどの文言を追記願います。
事務局	修正、追記いたします。

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
議 長	今回のように質的評価は難しいものもあるが、量的評価は可能か。何か目標数値などはあるのか。
事務局	総合振興計画では、施策の成果指標に数値目標が設定されている。
議 長	市民参加推進計画のようなものはあるのか。
事務局	市民参加に関係するものだと「市民参加と協働指針」であり、数値目標が設定されているものだと、「総合振興計画後期基本計画実施計画」の中で「市民活動センター運営事業」の成果指標を「市民活動センターの登録団体数」としている。
議 長	成果指標で目標値を設定しているのであれば、全く指標がないよりは客観性という部分では第三者評価としての判断材料になるかと思う。目標値達成状況を、総合評価の部分に記載してもいいのではないか。
市民活動センター	単純に登録団体数が増えることが望ましいのかどうか、指標をどうとるのは非常に難しい。
議 長	計画の中で目標は立てているので、量的評価は可能だと思う。今回の評価では、質的評価に留まっているので、客観性という部分があってもいいかと思う。可能であれば、直近３年分位の実績も含めて標記されるといいかと思う。
議 長	全体を通じて、何か質問等がある方は挙手をお願いします。 ～なし～
事務局	≪ ５ その他 ≫ 第２回の審議会は令和７年２月頃を予定している。 ≪ ６ 閉会 ≫
議事の顛末・概要を記載し、その相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和６年１１月２５日 署名者の職・氏名 市民参加推進審議会議長 牛山 久仁彦	